

令和 5 年 6 月 16 日現在

機関番号：15101

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18K00236

研究課題名（和文）社会的に拡張する演劇団体のプラクティスに関する研究

研究課題名（英文）A study on the socially expanded practices of the theatre groups

研究代表者

五島 朋子（GOTO, Tomoko）

鳥取大学・地域学部・教授

研究者番号：80403369

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、地方都市を拠点にする演劇団体の活動が、作品上演のほか、教育、福祉、まちづくりなど多様な社会的領域へ活動を拡張していることを、具体的な事例研究を通じて明らかにした。また、そのような演劇活動の社会的拡張の契機は、演劇団体と地域社会の様々なアクターとの相互交流や摩擦にあること、地域コミュニティの規模や特色と大きく関わっていることが確認できた。演劇活動の社会的拡張を促すには、地域社会の側の演劇に対する関心や期待の醸成が必要であり、演劇団体には地域の様々な団体・組織と濃密なコミュニケーションをとって行く柔軟性と即興的な対応が求められることを示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、演劇団体の活動が、教育、福祉、地域づくり、国際交流など多彩な領域に拡張している様子を把握し、演劇団体が地域において担う社会的な役割の可能性を提示し、地域演劇研究の新たな視点を提起した。本研究の成果として研究期間中に論文を発表するとともに、本研究によって、ローカルな演劇活動の資料を発掘することができ、地域における文化資源の再評価につながった。

研究成果の概要（英文）：This study revealed that the activities by regionally based theatre groups were not limited to theatre performance but also extended to diverse social activities, such as those in education, social welfare, and community development. The study also showed that mutual interactions and frictions between theatre groups and various actors in the local community provided impetus for these social engagement for theatre groups, and that their engagement was also affected largely by the population size and characteristics of the local communities. The study also suggested that developing local communities' interests and expectations for theatre and theatre groups' flexible attitudes and skills to communicate closely with various groups and organizations in the community were necessary to facilitate these social extensions by theatre groups.

研究分野：アートマネジメント

キーワード：地域演劇 劇団活動 シニア演劇 公立文化施設 コミュニティ・シアター ソーシャル・プラクティス
鳥の劇場 鳥取市民劇場

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

演劇作品を創作・上演することを目的に活動する演劇団体が、上演のみならず、多様な領域で活動する事例が近年増えている。文化庁の補助メニューで推進されてきた小中学校など教育現場での公演・演劇ワークショップ以外にも、障害者との協働による作品づくり、高齢者の機能維持や生きがいづくりを目的とするワークショップ、公立ホールにおける住民参加型事業の企画運営、商店街やまちづくりNPOと協働する演劇作品づくりなど、演劇団体が指導者や専門家として携わるなど、演劇団体の活動が、地域社会の多様な領域へ拡張している様子が伺える。同時に、少子化高齢化によってもたらされる様々な社会的課題、例えば中心市街地の衰退、空き家や耕作放棄地の増大、生活利便性の縮退、雇用の減少などが山積する地方都市で、演劇やその他の芸術活動、またそれらを担う人材や組織に対する社会的要請や期待にも変化が生じていると考えられる。

しかしながら、現代演劇の創作・上演を行う地方の演劇団体については、まとまったデータもなく、またそもそも趣味的なアマチュアの活動として、社会的役割という観点から捉えることが、団体の内外ともに希薄であり、どのような演劇団体が、どのような演劇上演や社会的な実践を行っているのか、量的な把握も質的な検討も行われてこなかった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、演劇団体の活動内容・活動領域の展開を把握することを通じて、演劇団体が担う文化的役割と意義を明確にするとともに、拡張しつつある活動領域と内容についてその様相を明らかにすることである。特に、演劇の創造環境や舞台作品の享受機会に関し条件が不利と考えられる地方都市で活動する演劇団体に着目しつつ、演劇団体が演劇活動を核としながら、活動領域を拡張することによって、その文化的役割を充実させるとともに、演劇活動に対する社会的認知や期待が醸成されていく様子を検証する。本研究は、これまで演劇学やアートマネジメントの分野で研究対象とされることが限定的であった、地域の演劇団体の活動領域に焦点をあてることで、地域演劇研究の豊富化に寄与するのみならず、これら演劇活動を地域社会の芸術活動の振興という観点に加え、文化政策における政策主体の一つとして、演劇団体の可能性を提示することを旨とする。

3. 研究の方法

本研究は、(1) 継続的に活動する演劇団体の組織・活動実態に関する基礎的なデータの収集による量的な把握 (2) 社会的課題に取り組む特徴的な演劇活動について、現地調査、参与観察、インタビューの継続的な調査による事例研究で進める。(1)については、既存のネットワーク組織や公立文化施設等が持つ情報を基盤に、主に、九州・中国・四国地方を対象に、現在活動を行っている演劇団体に関するデータを収集し、活動領域の広がり把握する。(2)については、コロナ禍により調査対象の変更を余儀なくされたが、最終的に以下の4事例(分野)について集中的に検討を行った。超高齢社会と演劇、公立文化施設と演劇団体、地域づくりと劇場を持つ劇団、長い活動歴を有するアマチュアの演劇団体の活動である。

4. 研究成果

(1) 演劇団体の活動内容・活動領域の展開状況

九州、中国、四国を対象に、劇場・ホールの利用状況、地域の文化団体連合会といった団体名簿のほか、インターネットや新聞記事データベース検索等から、演劇団体情報を収集し、2019年度時点で過去3年間の活動実績がある団体を整理抽出し、九州239、中国73、四国78、合計390件をリストアップできた。当初の計画では、これらの団体にインターネットでのアンケート調査を実施予定であったが、2019年度末からのコロナ禍により、多くの団体の活動は休止することとなり、研究期間中のアンケート調査による量的な実態把握は実現できなかった。

代替措置として、演劇団体の数が集中する九州・福岡エリアについては、複数の団体に集中的にインタビュー調査を行なった。都市部では、高等学校、専門学校などの教育機関で演劇や演技を専門的に指導する機会を得ることができること、また地元のタレント、モデル事務所と連携した商業ベースの展開機会があることなどから一定規模以上の都市と、人口規模の小さな都市では、演劇活動の社会的な拡張の方向性に違いがあることが確認できた。また、当該の地域に立地する公立文化施設(公共劇場)の事業展開が、劇団活動の方向性に大きな影響を与えていることが、福岡市と北九州市における劇団活動状況の違いから明らかになった。

(2) 事例研究

特徴的な演劇実践、演劇団体についての事例研究からは、下記の研究成果が得られた。

[超高齢社会と演劇]: 高齢者による演劇活動のデータを網羅的に収集(102件)整理した上で、演劇人が指導する活動を抽出し、その活動状況とその意義を検討した。身体を使うグループ活動である演劇表現は、高齢者の身体的・認知的特性に配慮した活動を行うことによって、高齢者にとって健康の維持や活力源として一定の効果を持ちうること、特に演劇の専門家が関与するこ

とによって舞台作品としての質が高まり、観客の前で演じるという行為を通じて、観客とシニア参加者双方に、高齢者イメージを変化させる可能性があると言える。指導する劇団主宰者にとっては、人生経験を積んだ高齢者の個性的な身体が、新たな作品を作る刺激を与えるという芸術性に資する側面があることも確認できた。しかし、データを収集した2020年時点では、そのほとんどが元気なシニア層の演劇活動であったこともあり、高齢者との演劇活動は、公立文化施設や演劇に関するNPO等との連携以外の、福祉施設や高齢者福祉行政、その他の組織との連携は限定的であった。

[公立文化施設と演劇団体]: 地域の劇団(こふく劇場)が、公立文化施設(三股町立文化会館)における「創造」機能を担う事例では、劇団が参画して実施される複数の自主文化事業(具体的には、子どもの劇団指導、一般向け戯曲講座、町民参加による戯曲のリーディング公演)が有機的に繋がり継続的(2004年から現在まで実施)に実施されていること、劇団のこれまでの演劇創造ネットワークにより町外・県外の演劇関係者の参画が促されること、などから文化施設の文化事業が、地域の賑わいづくり、多世代交流、演劇人・団体の交流ネットワーク構築といった輻輳的・波及的效果を生み出していることを明らかにした。特に自治体の規模、行政職員と劇団の関係性が、継続性と波及的な展開を促進につながっている。

[地域づくりと劇場を持つ劇団]: 劇団鳥の劇場(NPO法人)は、当初は自らの演劇創造のために占有できる場所として、2006年から鳥取市鹿野町の廃校小学校体育館・幼稚園舎を拠点に活動を始めた。行政および町内の複数の既存地域団体(NPO法人いんしゅう鹿野まちづくり協議会や、ふるさとミュージカル実行委員会など)が、劇団の地域への定着と受容に媒介的役割を果たすとともに、これらの団体との交流・交渉の中から、劇団は地域の課題やニーズを汲んだ事業を構想し、地域側からは劇団への様々な相談・事業の依頼が生まれる、という受容と波及のプロセスを明らかにした。劇団が定住することで、地域住民との関係性を構築しながら、学校教育に新しい科目(「表驚科(あらわしか)」)の設置と劇団の参画、障害のある人を行う演劇活動(「じゅう劇場」)客演・招聘アーティストの滞在制作による空き家活用促進など、地域の様々な課題とリンクする活動へと展開している。

[長い活動歴を有するアマチュアの演劇団体の活動]: 鳥取県立図書館所蔵「難波忠男寄贈資料」調査より、鳥取市の劇団「鳥取市民劇場」(1965年創設)の活動とその主宰者難波の足跡を追うことで、地方都市におけるアマチュア劇団が市民主体の文化的環境整備において、様々な活動・団体のプラットフォームとしての役割を果たしてきたことを明らかにした。具体的には、市民参加の舞台創造を通じた文化活動者の連携・ネットワークおよび人材育成、地域の文化活動の掘り起こし、音楽や美術など多様な文化分野との連携促進などである。また、高校演劇、社会教育などにおいても、連携の要となる役割を果たした。特に、地方の文化団体に対する国・自治体などからの支援制度もなく、法律や条例もなく、また公立の文化施設も未整備な1980年代までは、地域の文化環境の向上に大きな役割を果たしてきたことを示した。こうした演劇団体の活動は、市民主体の文化活動の核となっており、波及的に社会的な活動とも連携していたのである。このようなアマチュアの演劇団体の活動を再評価する必要があると考える。

これらの検討から、演劇活動の社会的な拡張の様相は、演劇団体が依拠する地域コミュニティの規模や特色、また地域社会の様々な団体・組織との距離が強く関係していること、活動の持続性は、こうした団体・組織との交流や関係性を必要とすることを示した。また、作品上演に加えて、多様な領域に波及していく契機やその具体的な事業展開は、演劇団体側に社会的課題へ向けた志向や目的意識があらかじめ明確に存在するというよりも、地域内外における様々な団体・組織・個人とのコミュニケーション、相互交流あるいは摩擦が重要であるといえる。地域社会の側が、演劇活動に対してどのような関心や期待を持ちうるかが、演劇団体の社会的拡張を豊かにしていくのであり、そのような期待や関心を喚起するような演劇団体の柔軟性や即興的な対応が肝要である。

また、本研究を通じて、戦後各地に創設されたアマチュアの演劇団体の活動を、地域社会の文化環境構築や様々な文化活動との関連、また行政、教育、福祉、商業など地域社会の多様な主体との関係性から再検討していく必要があることが、今後の研究の展開として明らかになった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 五島朋子	4. 巻 18 (3)
2. 論文標題 アマチュア演劇を生きる（その1）－鳥取県立図書館難波忠男寄贈資料から－	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 地域学論集	6. 最初と最後の頁 53-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 五島朋子	4. 巻 17 (1)
2. 論文標題 超高齢社会におけるシニア演劇の可能性に関する予備的考察	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地域学論集	6. 最初と最後の頁 129-143
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 五島朋子	4. 巻 17(2)
2. 論文標題 日本における「シニア演劇」の現状と展望	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地域学論集	6. 最初と最後の頁 117-133
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 五島朋子	4. 巻 16(2)
2. 論文標題 地域劇団と公立文化施設の協働が生み出す「わが町の劇場」：三股町立文化会館と劇団こぶく劇場を事例として	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地域学論集	6. 最初と最後の頁 49-60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 五島朋子	4. 巻 19(2)
2. 論文標題 アマチュア演劇を生きる(その2): 難波忠男の演劇人生	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 地域学論集	6. 最初と最後の頁 45-60
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件(うち招待講演 2件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 五島朋子
2. 発表標題 地域資源を活かした文化事業(地域と連携した劇場・音楽堂の可能性を考える)
3. 学会等名 全国公文協研究大会(大阪・豊中大会)(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 五島朋子
2. 発表標題 シンポジウムFLAMES Kyoto
3. 学会等名 老いをめぐるシアタープロジェクト(招待講演)
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 五島朋子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 292
3. 書名 地域とともに未来を創る劇場を目指して—鳥取県鹿野町NPO法人鳥の劇場の挑戦(野田邦弘他編著「アートがひらく地域のこれから」所収)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------